

すべての女性が輝く明日のために

JAUW 会報

第277号
2022年11月

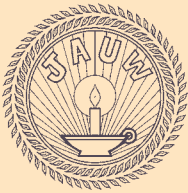


一般社団法人
大学女性協会



特集 公開シンポジウム

企画委員長挨拶、プログラム……………	2	ヒューマンストーリー支部編……………	6
基調講演「ケアしあう社会をつくる」………	3	三木谷節子（神戸） 高田武子（岡山）	
パネリストから		Jカフェ第13回報告……………	7
国際ネットワーク委員会報告……………	4	新潟支部オンライン公開講演会	
文化交流委員会、国際奨学委員会……………	5	役員選考委員会より……………	8
		パトリシア募金寄付者ご芳名、新入会員、 JAUW 新春のつどい、収益事業委員会、 生涯学習委員会、理事会から	



2022年度 一般社団法人 大学女性協会 公開シンポジウム

教育・ジェンダー・共生

～ユースの視点から見直そう これからの日本～



日時：2022年10月22日（土）10：30～16：00

会場：エッサム神田ホール2号館6階中会議室、オンライン併用

次世代につないでゆくこと

企画委員長 中道 貞子



大学女性協会が毎年秋に隔年実施している公開シンポジウムと全国セミナーは、COVID-19の世界的流行のため、2020年度からは対面とオンラインとのハイブリッド開催を余儀なくされてきました。専門家の手を借りない手作りでの実施は試行

錯誤の連続でした。それでも、私たちは遠くに住んでいたり、出歩くのが難しかったりする方にも参加していただける利点があることを感じています。もちろん、対面で人と人とが顔を合わせて話すことの大切さも十分承知した上でこのことです。

コロナ下での開催3年目となる今年のメインテーマは「教育・ジェンダー・共生」。同じテーマの下での開催は5年目になりました。これらのキーワードは私たちの活動の根っこにあり、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けたSDGsの目標にも「4. 質の高い教育をみんなに」「5. ジェンダー平等を実現しよう」と、教育・ジェンダーが挙げられています。共生という言葉そのものは出てこなくても、

よりよい社会を形成するためには必須の要素です。

今年のサブテーマは「ユースの視点から見直そう これからの日本」としました。ユースの定義はいろいろありますが、ここでは年齢にこだわらず、私たちのミッションを次につないでゆく次世代というイメージを持っています。まずは、ユースの声にしっかりと耳を傾け、その課題を明確にし、私たちにできることは何なのかを考えるきっかけになることを願っています。

現在、大学女性協会は高齢化による会員減という大きな問題に直面しています。女性が高等教育を受けるのが困難だった時代に、先輩たちが切り開いてこられた道を閉ざしてしまわないために、大学女性協会の存在意義やそのミッションを今一度考えてみる機会にしたいと思います。今もなお社会で活躍されている会員が多いとはいえ、次世代に何を、どうつないでゆくかを考える必要があります。

コロナ下では密集・密接・密閉の3密（3C：Crowded・Close-contact・Confined）を避けることが求められました。これからはCommunication・Collaboration・Continuation、すなわち、「つたえる・つなげる・つづける」を大切にしたいと思います。シンポジウムでの学びを多くの人に伝え、繋がりを広げ、課題解決に向かって歩み続け、次年度の全国セミナーでお目にかかれますように。

プログラム

総合司会 実行委員長 市川知恵子

- 10：30- 開会 挨拶 会長 岩村道子
- 10：40- 第一部 基調講演 静岡県立大学 国際関係学部教授 津富宏
- 13：10- 第二部 パネル討議 趣旨説明 企画委員長 中道貞子
- 13：20- パネリストによる発題
総合地球環境学研究所 研究員 京都支部 一原雅子
駿河台大学 法学部 助教 東京支部 宮下摩維子
静岡県立大学学生「学生助けたいんじゃー」メンバー 佐藤美帆、松浦旦周
- 14：50- パネルディスカッション
上記4名のパネリスト、コメンテーター 津富宏教授
ファシリテーター 中道貞子
- 16：00- 閉会



会場でパネリストの発表に聞き入る参加者

基調講演

静岡県立大学教授 津富 宏氏

ケアしあう社会をつくる



社会的排除が進むこの社会において、私たちの多くからケアが奪われている。脆弱な私たちは、どのように生き抜いたらよいのだろうか。

『ケア宣言』は、ケアを中心に置いて社会を構想しようと主張する。女性がケアを担い提供することが当たり前とされる社会ではなく、(他者によるケアに依存している)自立/自律した個人像ではなく(他者とのケア関係を通じて自尊心を獲得していく)脆弱な個人像に基づいて社会をつくり直そうという提案である。

そんな社会をつくるための私の提案は、排除された者同士がつながりあうことで「解放区」をつくり、そこから、社会全体に染み渡るように、私たち相互の関係性を変えていこうというものである。二つの具体的な取組みを紹介する。一つは、静岡県立大学で行っている学生の貧困についての取組みである。コミュニティ・オーガナイズングという手法を用いながら、学生たち自身が、仲間の学生のために、意思決定者の判断を変えるための発信や働きかけを行っている。もう一つは、静岡県内で行っている就労支援の取組みである。「静岡方式」と名付けた手法を用いて、困りごとを「萃点」として^{すいてん}わらわらと集まりながら、地域の人々の相互扶助をつくりだしている。

今、世界では、私たちからケアを奪っているグローバリゼーションに自治体単位で対抗しようという動きであるミュニシパリズムが始まっている。その考えをまとめたのが、Fearless Cities (『恐れを知らぬまち』)である。ミュニシパリズムの柱の一つは「政治の女性化」であり、地位の平等、発言の平等、役割の平等、あらゆる政策におけるジェンダー平等を通じて、政治の女性化を推進している。ケアしあう経済である社会的連帯経済の動きも南欧や南米を中心に展開している。土地、労働、貨幣を脱商品化する経済である。

ケアしあう社会をつくろう。身近なところから始めよう。

文献

『ケア宣言』 ケア・コレクティヴ著 (大月書店、2021年)
Barcelona En Comú, *Fearless Cities: A Guide to the Global Municipalist Movement* (New Internationalist Publications Ltd. 2019)

パネリストから

一原 雅子さん

総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター
京都気候変動適応センター研究員 (京都支部会員)

「ケアしあう社会をつくる」ためには女性の参画が必要だということが、既にミュニシパリズム先進の地で常識であることを知り、研究界にもより多くの女性が多様なライフイベントを抱えつつも十分に活躍できる場を創っていく必要性を新たに認識できました。



宮下 摩維子さん

駿河台大学 法学部 助教
(東京支部会員)

津富宏先生の「各々の信じる正義を実現するために努力する大人の姿を若い人たちに見せることが大切だ」というお言葉が胸に残っています。ケアしあう社会が実現することを諦めずに邁進し続け、社会を少しでもよいものにして、次の世代に引き渡したいと思いました。



松浦 旦周さん

あきのり
静岡県立大学 国際関係学部3年
「学生助けたいんじゃー」メンバー

私たちのお話に耳を傾けてくださったこと、そして今の大学生を取り巻く環境を多くの方に知っていただけたことを大変嬉しく思います。このような取組みが県立大学だけではなく、より多くの大学に広がり、「ケアしあう」社会ができることを願っています。



佐藤 美帆さん

静岡県立大学 看護学部2年
「学生助けたいんじゃー」メンバー

大学生の現状を知り、少しでも興味を持っていただけたなら嬉しく思います。私たちの活動をいいねと言ってください言葉が励みになりました。身近な人を放っておけないという思いを大切に、誰一人取り残さない大学を目指して活動を続けていきます。



国際ネットワーク委員会報告

3年越しの願い叶う

—国連総会代表顧問イレーネ賀集さん歓送会—

国際ネットワーク委員長 鈴木千鶴子

日本は1956年に念願の国際連合加盟を果たした。国連 NGO 国内女性委員会創設の中心人物市川房枝は、国連総会日本政府代表団に「民間の女性」の参画を強く要請し、1957年初の代表団の一員として藤田たき（JAUW初代会長）の派遣が実現した。この民間女性の登用は画期的な出来事であり、その後65年も途絶えることなく続き、国連加盟国の間でも素晴らしい取り組みとして注目されている。

このたび、2020年からCOVID-19のパンデミックにより延期されていた JAUW のイレーネ賀集さん（愛知支部会員）の第77回国連総会第三委員会への公式参加が実現し、外務省女性参画室首席事務官を迎え辞令交付を含めた歓送会が、9月20日に対面とZoomのハイブリッドで開催された。

代表顧問推薦を担う国連 NGO 国内女性委員会の鷺見八重子委員長の挨拶に続き、慣例による所属団体からの「歓送のこぼし」で、岩村道子会長は国際奨学制度や GWI での活動、CSW への参加など JAUW の国際性を紹介するとともに、賀集さんの日英西語を使いこなす卓越した語学力と写真家として世界をシャープに切り取る独自のレンズで、国連を私たちに身近なものとして紹介することに期待を寄せた。

歴代の代表には、緒方貞子をはじめ、女性初の大使高橋展子、ユニフェム日本初代会長中村道子（JAUW第14代会長）ら、偉大な女性たちが名を連ねる中、JAUW からは、他に野瀬久美子、青木怜子、房野桂、鷺見八重子、矢口有乃と最も多くを輩出している。今年の国連は、ウクライナ情勢で動きのとれない安保理に代わり総会、特に社会・人道・文化をテーマとする第三委員会の存在感が増している。



歓送会でイレーネ賀集さん（左上）へエールを送る参加者

第34回 GWI オンライン総会

CIR 岡崎優子

いよいよ秋本番となり早春にはまだ葉が出ていない枝上につつましく愛らしく咲いていた薄ピンクのカリンの小花がいつの間にか黄色の立派な果実に変身しています。

100周年記念ジュネーブ総会から3年が経過して、第34回 GWI オンライン総会が11月11日から13日まで開催されました。コロナ感染症流行の影響を受けて、これまでの総会とは異なり初めてオンラインで世界中の会員が集合し、開会式、本会議で始まり、多くのセミナーやワークショップが続きました。

総会のメインテーマは「成長を超えて持続可能性へ」で、サブテーマは 1. 必要な変革：ユースのリーダーシップ 2. 大卒女性のSDGsに向けた草の根の運動 3. 教育格差の要因を探ろう 4. 基本的能力の先へ、社会課題解決能力の育成 5. COVID-19の女性と女兒への影響の解消へ です。

10月22日に開催された JAUW 公開シンポジウムのメインテーマ「教育・ジェンダー・共生」サブテーマ「ユースの視点から見直そう これからの日本」と関連のある内容になっています。

本会議の代議員は岩村道子会長と岡崎優子 CIR 担当理事です。代理代議員は穂田信子元 CIR・現広報担当理事と鈴木千鶴子前 CIR・現国際ネットワーク委員長です。

ワークショップ

神戸支部 ケイ・フォーラン

第34回 GWI 総会は、「成長を超えて持続可能性へ」をテーマに、各国の GWI メンバーと共に「質の高い教育をみんなに」(SDGs No.4) の実現を目指します。11月13日（日）のワークショップは、世界に広がる GWI の多くの加盟国協会によって開催されます。大学女性協会では、日本の教育界の現状と問題点について考え、その解決策の一つとして、英語でのプレゼンテーション能力の向上に努めます。

鈴木千鶴子国際ネットワーク委員長の進行により、第一部では、ケイ・フォーラン（神戸支部）が、日本の教育界の現状を英語で報告し、問題点を提起します。続いて、ヴァレリー・ウイルキンソン国際ネットワーク委員（静岡支部）が、教授としての経験に基づき、教えることと学ぶことについて話します。休憩の間に、トピックによるグループ分けを行います。

グループ討論を通じて、教育界において男女差をもたらしている要因・改善策について、話し合しましょう。母国語における心理的・歴史的・社会的な規制から自らを解放し、世界共通語である英語で、自由に、自信を持って、話し合しましょう。このワークショップでは、英語でのプレゼンテーション能力を高めることによって、女性の意識、自信を高め、女性の地位向上、男女平等を促進することを目指します。

文化交流委員会主催 留学生との交流会 能と狂言の鑑賞と「リンボウ先生の能楽講座」

文化交流委員長 建部静代

10月8日、国立能楽堂にて、留学生との交流会を開催した。3年振りの林望先生との国立能楽堂に各大学から中国、中国香港、台湾、ギリシャ、フランス、アメリカ、カナダ、ベトナム、韓国からの留学生14名が参加した。JAUWの会員・一般とあわせて48名の交流会となった。

国立能楽堂は建築家大江宏が正門から前庭、玄關広間を対角線に沿ってアプローチし、一番奥に能舞台という構成で設計している。観る側と演者（シテ方、ワキ方、狂言方、囃子方）とが一体となり、ひとつの演劇空間を創り上げることを志向した空間構成が美しい建造物だ。

その中の「向日葵」にて会員との交流会からスタートした。岡崎優子担当理事の挨拶と留学生の自己紹介、会食、歓談に自然にうちとけていく。その後、資料展示室にて面・装束・文献・絵画等を鑑賞し、流れるように、幽玄な世界へ参加するために歩廊から客席へ向かった。

本舞台の中央では作家・国文学者の林望先生の解説・能楽あんない「『狂ひ』の徳-花筐を巡って-」がはじまる。

つづいて狂言「狐塚（きつねづか）」、大藏教義（大藏流）の演ずる「誇張された動作」や台詞の声の調子等「音の響き」の「おかしみ」にどっと笑い声があがった。

松山隆雄（観世流）がシテを演じる能「花筐（はながたみ）」では、留学生達は謡や楽器の音の振動を全身で感じ、演者の静かな動きを見逃さないように、食い入るように見つめていた。

鑑賞後、研修用舞台へ場所を移して、「リンボウ先生の能楽講座-初めての能楽とその魅力について-」がはじまる。

リンボウ先生は、本舞台を縦横に「ハコビ」（すり足）で動きながら、鏡板の松の絵、面をかけると視野の狭くなる演者の目印になる目付柱の角度、切戸口、階（きざはし）、白洲等々、能舞台の構造とその歴史的背景をわかりやすく解説してくださった。

歌舞伎や文楽との違いにも話が及ぶ。最後に参加者全員が先生に「ハコビ」の歩き方を教えていただきながら、揚幕から橋掛りを本舞台まで踏み進む。橋掛りは重要な演劇空間であり、現世から神聖な能舞台への境界となる。

ある留学生の「この場所に来て心から良かったと思う」という言葉に、一同、思わず笑みがこぼれた。



国際奨学生募集の再開に寄せて

国際奨学委員長 加納孝代

2年半前、コロナウイルス感染症というパンデミックの猛攻を浴びて国際奨学生の募集は中止されました。このたび再開の時を迎えることができ、11名の委員と秋光正子担当理事と岩村道子会長（前国際奨学委員長）一同、心よりそのことを喜んでおります。

7月に最初の委員会を開いたところ、再開の方向を探りたいという声が多かったので、募集要項と応募書類を整理し、アップデートするところから始めました。今後ますますウェブサイトからの情報発信が求められるだろうとの予想から、書類はPDFで、グーグルフォームが必要、という議論にも熱が入りました。7月、8月、9月で5回も委員会を開きましたが、それを可能にしたのはズーム会議でした。にこにこ顔の揃った委員会風景をご覧ください。

2022年にロシアによるウクライナ侵攻が始まった時、日本在住のウクライナ人が次々に日本のメディアに登場し、市民の平和な日常を一瞬にして破壊する侵略戦争の理不尽さを訴えました。その時、見事な日本語を操るウクライナ人がこんなにも日本におられたのかと驚嘆しました。日本からのリポーターがウクライナに飛べば、そこにも日本語の堪能なウクライナ人がいて、情報提供をしてくれていました。全員が留学生でも留学体験者でもなかったかもしれませんが、しかし外国語を学び、いざというときにそれを駆使して国際的な舞台で人の心を動かすほどの表現力を持つことがいかに重要であるかを実感しました。その第一歩として留学経験はとくに意味があるということに思いを致した次第です。

国際奨学金制度は第一義を言語習得に置くものではありません。第一目的はその人の研究に資することです。しかし副産物として双方に、相互理解、友情や親近感、国際親善の思いが強められることを期待してもよいでしょう。

委員会として、多くの応募者の中からわずか2名を選抜する責任は重大ですが、その人の研究者としてのキャリアを支援するのみならず、同時に、平和な世界を来たらせるために手を取り合えるような異国からの若い友に出会いたいとの願いも、少しずつふくらみつつあります。



支部会員の中には、永年にわたり JAUW の活動に活躍の方々がいらっしゃいます。今回は2名の会員にインタビューさせていただきました。（広報委員会）



〈三木谷節子プロフィール〉
1931年、横浜生まれ。父親の仕事の関係でニューヨーク、上海、北京に滞在。1954年、神戸大学経済学部卒業。商社兼松で女性初の正社員として6年間勤務。結婚後、子育てをしながら、地域活動、ボランティア、ラボ教育センターに尽力。1998年 JAUW に入会。支部長などを歴任。現在(株)ヴィッセル神戸監査役。

Q1) JAUW への入会はいつでしょうか。そのきっかけは。
1998年です。アメリカのイエール大学に夫三木谷良一が行くことになり家族で渡米。帰国後、日本人仲間の会があり、そこで知り合った橋谷静子神戸支部会員に誘われました。イエール大学ではゴールドスミス教授のリサーチアシスタントの仕事をして、兼松での経験を生かし、表、グラフ、記述などのチェックをしました。ソーシャルセキュリティーナンバーも持ちました。

Q2) JAUW ではどのような活動をなさいましたか。
入会から支部役員として、児童のDV、高齢者のDVについて調査、研究をして、全国セミナーで発表をしました。2005年～2009年支部長、2016年全国総会実行委員長、2010年はさらに支部長を引き受けました。
本部の委員会は収益事業委員会、文化事業委員会の委員です。文化事業委員会では、2018年にスウェーデンの音楽家たちを招き、スウェーデン大使も参加のコンサートの開催に尽力しました。

Q3) 特に心に残ったことは何ですか。
神戸での全国総会を2回開きました。2016年の創立70周年記念第5回全国総会での実行委員長として次男三木谷浩史の公開講演会を計画、研修旅行もスパコン京、田崎真珠、五色塚古墳の見学など、好評だったことです。
GWI総会にはパース、マンチェスター、ケープタウン、香港（協会創立60周年記念大会）、ジュネーブなど毎回のように参加しています。母娘で神戸支部会員の伊藤舞さんが、大接戦の末、芦屋市長に当選しましたが、支部丸となって応援しました。

Q4) 現在もプロサッカーチーム・楽天ヴィッセル神戸株式会社監査役をされていますね。そのパワーの秘訣は何ですか。
ヴィッセル神戸は一昨年は天皇杯も取りましたが、今年は大変です。部長会に出席し、「もっと選手の立場に立って考えてください」と発言しました。前向きに考えていることが活力になるかも知れません。

Q5) 支部から本部へのご要望をお聞かせください。
ボランティア団体としては会費が高いと思います。会員が増えない原因にもなっています。
★インタビューの日は偶然91歳のお誕生日でした。ますますのご活躍をお祈りします。



〈高田武子プロフィール〉
1943年12月5日、広島県尾道市生まれ。1966年、日本女子大学家政学部卒業。「布で作る絵本」など、ボランティア活動をしながら、1990年、岡山市教育委員会委員（2回教育委員長を務める）。1999～2007年、岡山市収入役。他に（公財）サンフラワー基金（DV被害者支援）・岡山市社会福祉協議会などの会長を務める。

Q1) JAUW への入会はいつでしょうか。そのきっかけは。
1966年岡山支部ができ、1972年には入会しました。私はそのころボランティア活動として「布で作る絵本」「子どもと一緒におやつ作り」「難聴者のための料理教室」「知的障害児のためのパン作り教室・チューリップの会」などを主催していましたが、岡山支部の喜多嶋美枝子（当時）さんから市の教育委員会委員に推薦され、その後、JAUWの入会を薦められました。

Q2) 支部ではどのような活動をなさいましたか。
支部長は1回です。岡山支部の喜多嶋美枝子さんはじめ支部の皆様と30回続いた「外国人による日本語弁論大会」を始めました。2013年には地方支部で初めての「全国セミナー」の企画委員長も務め、1泊2日のセミナーを実施しました。支部活動をしている間に岡山市の収入役を1999年から8年間、その後、2007年から岡山市社会福祉協議会長として3年間地域福祉活動に携わりました。

Q3) JAUW 副会長をされましたが、特に心に残ったことは。
2010年より2期4年間副会長をいたしました。地方支部からの副会長はJAUWでは初めてでした。その時の一番の思い出は、当時の青木玲子会長、阿部幸子副会長とともに、支援が薄い高校生に月1万円の支援をするという「東日本大震災災害支援事業」（2011年9月～2018年3月）です。特設委員会をつくりました。支援終了の奨学生からは感謝の手紙をいただき、深い感動が残りました。また、奨学生が進学した看護学校からは直接感謝のお電話もいただいたりし、この事業が有意義な事業であったことを嬉しく感じました。

Q4) 現在もご活躍されていますが、そのパワーの秘訣は何ですか。
それはJAUWの素敵な仲間たちがいたことです。支部でも、本部でも皆様から、触発され刺激を受けました。楽しく過ごしていることです。

Q5) 支部から本部へのご要望をお聞かせください。
支部間の交流です。もっと支部間の繋がりがあればと思います。

Jカフェ第13回報告

雅楽の世界

講師 東京支部 平間充子

10月2日（日）14:00から、Zoomを用いて事務所から配信を行う、という初めての形式で、パワーポイントやネット上の資料を示しながらお話しさせていただきました。

雅楽とは、神前結婚式で流れるBGM、というイメージが湧くでしょうか。一般的には「皇室・神社・仏閣の儀礼音楽」だと思って差し支えないでしょう。宮内庁式部職楽部の演奏する雅楽は、能楽、文楽、歌舞伎、沖縄の組踊と共にユネスコの世界無形文化遺産に登録されています。

まず、雅楽の小ジャンルの一つである「管絃」について、使用される楽器を中心に解説しました。写真の笙は、単体で和音を奏でることのできるとても珍しい管楽器です。雅楽の楽器も、三味線などと同様に口唱歌（くちしょうが）を歌って音楽を体得することから始まります。龍笛（りゅうてき）という横笛を例に、口唱歌の実演とそれに基づく楽器の実演も行いました。指の腹を使ってようやく塞ぐことができるくらい指孔が大きい楽器ですが、だからこそ可能な、指を徐々にずらしながら音を出す独特の技法は龍笛ならではの、カメラの前に楽器を近づけてアップで指の動きを繰り返すことができ、対面では得難いZoom配信の強みを実感しました。後半は自身の研究成果も交え、雅楽の地理的・歴史的背景、ジェンダーから見た古代の雅楽演奏、学校教育における伝統芸能と雅楽、などについて説明しました。

参加されたのはご興味も視点もさまざまな45名、「神職者や僧侶など演奏の専門家ではない人も、五線譜ではなく雅楽独自の譜を使うのか」といった疑問や、法隆寺の聖霊会で奉納される舞楽《蘇莫者（そまくしゃ）》について、などの質問が飛び交いました。中でも、坂上栄美子会員から寄せられた『源氏物語』中の音楽演奏についての補足には、誰もが興味深く聴き入っていたように思います。

国内奨学生に選んでいただいて20数年、少しはお役に立ってようになった所に、参加された皆様から色々のご感想を頂戴し、再び励まされる思いです。大学での担当授業は打ち切られてしまいましたが、この経験を最大限生かすべく、次に教壇に立てる日に向け精進する意欲も湧いて参りました。最後になりましたが、お骨折りにございました生涯学習委員会の皆様にも心よりお礼を申し上げます。



〈新潟支部オンライン公開講演会〉
第36回女性史青山なを賞受賞作
『ナチス機関誌「女性展望」を読む
～女性像、日常生活、戦時動員～』について
新潟支部・男女共同参画部会長 高橋令子

「女性史青山なを賞」は、東京女子大学女性学研究所が1986年に設けた賞です。その昨年の受賞者である敬和学園大学名誉教授の桑原ヒサ子さんをお迎えし、7月16日にオンライン講演会を開催しました。温故知新といいますが、ウクライナでの戦禍の中にあって、過去の戦時における女性の生き方にふれることができ、時を得て有意義でした。

『女性展望』は、ナチス政権下で中産階級の女性達によって編集された官製の女性雑誌で、発行部数140万部を誇り、大きな影響力をもつ大衆メディアでしたが、今ではほとんど知られていません。ナチス時代の女性史を掘り起こした意義は大きいと思います。

第一次世界大戦とスペイン風邪の流行で欧州の人口が激減した中、ナチス政権は国をあげて「母親崇拜」、「家庭回帰」を基本とし、ヴァイマル時代の民主化で社会進出していた女性達は解雇されました。党指導部の保守的・反動的な政策にナチス女性団員は当惑しましたが、1934年にゲルトルート・シヨルツ＝クリンクが政権の全国女性指導部のトップに選ばれると、女性に与えられた領域で国家に奉仕する活動を展開して巨大な組織を構築しました。女性達は「母」を切り札として堂々と社会活動に従事したのです。全国女性指導部の9項目の事業のうち「新聞・雑誌・プロパガンダ」の中で『女性展望』が発行されました。母親学校では家政講習会等をしてきましたが、そこで教える女性教員の職場を作り出しました。街中では、交通機関の車掌、郵便配達、戦闘機を作る工具等にも女性が就きました。戦時中色々な仕事をして自己肯定感が強くなった妻と、従来の性別役割意識が強い帰還した夫との間で軋轢があり、戦後離婚率が高くなりました。夫が戦死した女性達には戦後の困窮生活が待っていました。現代の男女平等への道筋は、このナチス時代の体験なくしては実現しなかったものです。

全国の支部の皆さんもご参加くださり、オンラインの恩恵を感じながら、意見交換も楽しむことができました。

東京女子大学女性学研究所HP『年報32号2021～2022』で桑原ヒサ子さんの受賞記念の投稿をお読みいただけます。11月発行予定の『新潟支部会報』と支部のブログで講演内容を詳しく掲載していますのでご一読ください。



オンライン講演会の様子



本の表紙

役員選考委員会より

委員長 田邊 光子

2022・2023年度の役員選考委員会が次の7名で発足しました。

委員長：田邊光子 委員：市川知恵子（書記）坂上栄美子
城倉純子 鷲見八重子 縄田真紀子 端本和子

2023年度総務・会計担当理事の補充候補者2名の推薦依頼
総務理事・会計理事が現在各1名です。役員選考委員会では理事2名を補充することを提案いたします。候補者の推薦は本部へ郵送お願い申し上げます。

*詳しくは支部長にお問い合わせ下さい。

(一社)大学女性協会80周年記念募金パトリシア寄付者ご芳名

期間：2022年7月1日～2022年10月31日

寄付者人数：6名

寄付金額：140,000円

上記期間中の寄付者ご芳名（敬称略・支部別五十音順）

（東京支部）岩村道子、松崎和子

（京都支部）鳥田洋子（奈良支部）中道貞子

（岡山支部）杉村勝子（福岡支部）榎谷紀子

全体期間：2021年4月30日～2022年10月31日

寄付者延人数：213名、寄付総額：2,270,500円

寄付金の振込先口座

銀行：ゆうちょ銀行

名義：一般社団法人 大学女性協会

① 払込取扱票（郵便振替）で行う場合

口座記号及び口座番号：00130-0-587701

※パトリシア募金専用の払込取扱票をお持ちの場合は、そのまま使用可能です。

② 他行から振込の場合

支店名：〇一九店

口座種類及び口座番号：当座 587701

※ゆうちょ銀行口座から振り込まれる場合も同じです。

新入会員 理事会承認 2022年7月～10月

東京支部 木下ひろみ 静岡支部 佐藤 和枝

京都支部 角田 潤子 奈良支部 荻野 隆子

岡山支部 徳山 順子 岡山支部 平松 睦世

丸大食品 心に残る贈り物



《丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます》

お歳暮・お中元時期のほか、記念品・新築祝・開店祝
御礼・内祝・快気祝・各種景品等ご利用下さい

丸大食品株式会社 中央営業所特販係 担当：棚橋
〒135-0051 東京都江東区枝川2-23-2
TEL03(3647)3270 FAX03(3647)3274

JAUW 新春のつどい

2022年度の新春のつどいは、装いを新たに、下記のように会場を学士会館にて開催いたします。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2023年1月14日（土）11：00～15：00

場所：学士会館 201号室

千代田区神田錦町3-28 03-3292-5936

プログラム：2022年度国内奨学金贈呈式

懇親会

会費：10,000円

申込先：大学女性協会 本部事務所へファクスまたはメールで

申込締切：2022年12月18日

振込締切：2022年12月25日

振込先：三菱 UFJ 銀行四谷支店

普通預金：口座番号1077777

別口 一般社団法人大学女性協会 理事岩村道子

キャンセルは3日前までとさせていただきます。

*当日収益事業委員会によるバザーを行ないます。

皆様からの寄贈品も随時受け付けております。

収益事業委員会より お知らせ

☆初春歌舞伎（国立劇場）

日時：2023年1月23日（月）12時開演

演目：通し狂言「遠山桜天保日記」尾上菊五郎ほか

チケット：2等席8000円 定員15名 締切：12月5日（月）

*お問い合わせ・お申込みは JAUW 事務所へ

☆国立大劇場・小劇場が老朽化対策などのため来年10月で閉館、

2029年秋に再オープン予定です。私たちに馴染みの劇場での歌舞伎、文楽の「さよなら公演」をご案内してまいります。

生涯学習委員会より お知らせ

予告 『災害の記憶をつなぐ』出版のお知らせ

生涯学習委員会では、会員の皆さまの災害の体験をもとに一冊の本として出版することを準備しております。ご寄稿くださった70名の会員の方々には厚くお礼申し上げます。詳細が決まりましたら、またお知らせ申し上げます。

理事会から

- ▶ 全国公開シンポジウムには対面とオンラインで90名の参加者があり、「ケアしあう社会」への思いや若い人の率直な声を聞きました。
- ▶ 本年度の国内・社会福祉奨学生を決定しました。「新春のつどい」にて奨学金贈呈式を行います。
- ▶ 丸大ハムのカタログやHPのリンク先、楽天でのお買い物を通じて会の収益のため、ご協力をお願いします。

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6 パトリシア信濃町テラス101

電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889

https://www.jauw.org E-mail:jauw@jauw.org

発行人 岩村 道子 編集責任者 端本 和子

発行日 2022年11月30日